

# 各業務：地域医療連携室

## 1. 地域医療連携室

### 一 体制

事務職：男性2名、女性6名

(常勤2名、非常勤1名、臨時職員5名)

看護職：女性1名(退院支援看護師長)

### 一 業務

地域医療連携室は、地域の保健・医療・福祉機関などと連携をはかり、地域ぐるみの医療サービスシステムを効率よく円滑に運用していくことを目指している。

地域医療連携室は地域の中核病院として、かかりつけ医である開業医の先生方、地域の病院の先生方、福祉関連事業所の担当者さまと連携を図り、紹介・逆紹介を活発にし、良質な医療を提供し地域医療に貢献していくための対応窓口としての業務をおこなっている。

### 一 実績

地域医療予約件数(2015年4月～2016年3月)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
予約件数	956	813	1,063	1,061	964	850	980	907	913	878	952	1,042	11,379

(詳細：別表「診療科別データ」参照)

診療科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
放射線科	190	162	257	211	177	161	209	176	196	194	211	203	2,347
放射線治療科	2	1	1	3				1	1				9
麻酔科	1		1	3	5	2	1	3	4	2	1	1	24
リハビリテーション科	1		2	1	1	2	2		1		2	1	13
口腔外科	110	103	112	112	108	103	112	111	97	97	115	127	1,307
救急科	11	12	8	11	10	7	10	10	11	7	14	12	123
救命診療科		3	1	2	2				5		3	3	19
小計	956	813	1,063	1,061	964	850	980	907	913	878	952	1,042	11,379

### ① 紹介率・逆紹介率(2015年4月～2016年3月) (%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
紹介率	60.1	62.3	63.2	55.7	57.2	59.1	61.7	57.3	57.5	60.5	55.0	61.9	59.2
逆紹介率	130.2	118.7	105.6	94.8	92.7	105.9	105.8	99.0	110.1	117.7	95.7	109.9	106.7

※地域医療支援病院用の算出基準にて率を算出

2015年度は紹介率が59.2%、逆紹介率が106.7%で、地域医療支援病院の要件である「紹介率が50%以上かつ逆紹介率70%以上」を十分に達成した。

### ② 地域連携クリティカルパス導入件数(2015年4月～2016年3月)

地域医療連携室では、病診・病病連携の推進の一環として、地域連携クリティカルパスの導入に積極的に関わっている。

#### ● がん地域連携パス

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
乳がん	5	5	8	7	5	5	3	1	7	4	4	5	59
胃がん	2	1	5	5	0	1	1	0	1	2	1	2	21
大腸がん	1	15	16	14	4	5	3	6	11	3	3	6	87
合計	8	21	29	26	9	11	7	7	19	9	8	13	167

#### ● 脳卒中地域連携パス

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
脳卒中	19	8	10	13	10	15	17	10	22	15	11	19	169

#### ● 糖尿病地域連携パス

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
糖尿病	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2

#### ● 大腿骨地域連携パス

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
大腿骨頸部骨折	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4

### ③ 医療従事者対象の勉強会・研修会(事務局)

地域医療連携室では、医師会をはじめとした地域の医療従事者向けの勉強会・研修会の事務局の役割を担っている。

#### < りんくうカンファレンス >

隔月(奇数月)の第3木曜日に開催している。(主催は泉佐野泉南医師会)

2015年度は計6回開催された。

【詳細は院内行事のページ参照】

#### < 臨床集談会 >

毎月の第4木曜日に開催している。地域の医療従事者および当院の研修医向けの内容。

【詳細は院内行事のページ参照】

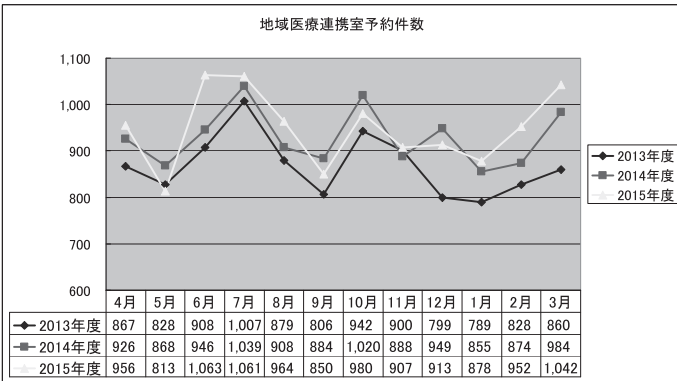
### ④ 市民健康講座の開催

#### < 市民健康講座 >

8月・12月を除く毎月第3土曜日に、当院3階大会議室において市民健康講座を開催している。

2015年度は5月が臨時休講のため、年9回開催した。

【詳細は院内行事のページ参照】



※地域予約件数(月別)を年度比較した数値をグラフ化したデータ(2013年度～2015年度)

年度推移からも地域医療連携室を経由した紹介依頼件数は安定し、全体的には少しずつ増加傾向にある。

#### 診療科別データ

診療科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内分泌代謝内科	17	16	16	27	20	19	17	14	22	17	19	21	225
総合内科・感染症内科	20	21	25	25	20	23	14	13	14	16	15	25	231
血液内科	16	9	13	20	15	15	10	15	14	23	11	22	183
腎臓内科	30	17	25	26	32	29	21	21	35	36	38	28	338
消化器科内科	28	13	35	38	58	41	55	33	46	36	36	49	468
循環器科内科	113	99	119	119	105	78	120	113	97	99	96	130	1,288
呼吸器科内科	24	13	24	25	32	26	23	41	30	25	28	34	325
肺腫瘍内科	6	4	9	20	10	5	8	1					63
神経内科	16	21	21	18	14	19	12	12	18	18	19	20	208
小児科	27	11	11	22	25	11	12	21	15	13	18	11	197
外科	62	50	78	80	70	68	89	70	63	67	51	58	806
呼吸器外科	3	1	1	2	1	1	2	1	2		1	3	18
心臓血管外科	21	13	19	16	16	12	12	10	15	13	20	15	182
脳神経外科	48	34	53	47	40	36	36	33	52	23	42	48	492
整形外科	40	42	43	42	34	34	40	27	26	35	33	46	442
形成外科	22	28	33	32	32	19	28	38	30	30	38	35	365
眼科								1					1
耳鼻咽喉科	69	62	65	71	67	68	67	64	55	43	63	85	779
皮膚科			1										1
泌尿器科	33	33	46	41	30	33	34	34	24	31	38	17	394
産婦人科	46	45	44	47	40	38	45	45	40	53	40	48	531

## ⑤その他

### ＜第4回 りんくう地域医療懇話会＞

2015年9月10日(土)、『第4回 りんくう地域医療懇話会』を開催した。

(於:スターゲイトホテル関西エアポート6階 RICCホール)

今回は8月に山下病院長が着任されたことを受けて、地域の関係者の方々に山下病院長をご紹介するとともに、医療連携の実績報告を行い、引き続きのご協力をお願いをした。

### ＜泉州南部診療情報連携システム(通称:なすびんネット)整備事業＞

地域医療再生基金の事業として、なすびんネットの整備事業を展開した。2013年10月より試行運用を経て、2014年4月の本番稼働の開始より2年目を迎えた。今年度だけで1,309件の同意取得件数があった。

#### ●なすびんネット同意取得数(2015年度)

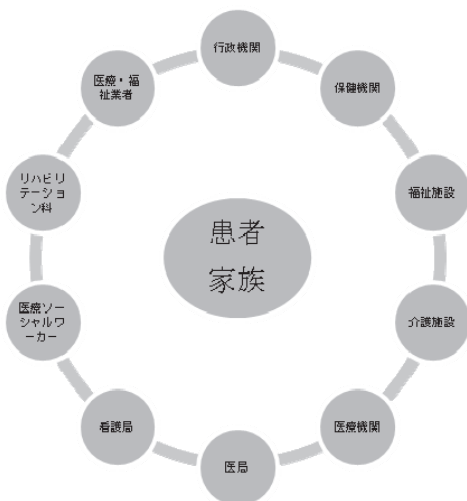
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
同意取得件数	75	63	90	101	180	100	78	64	241	80	117	120	1,309

## 2. 地域医療連携室 (MSW)

### ―業務―

MSWは患者さんとその家族の生活や傷病の状況から生じる経済的・社会的・心理的不安や問題等の解決に必要な社会資源の情報提供や活用の助言・指導等を行い、院内の関係職種・地域の関係機関との連携を密にし、患者さんが安心して療養できるよう支援することを目的とした業務をおこなっている。

医療費の助成制度、生活費に関すること、転院やかかりつけ医紹介、在宅医療・介護、社会保障制度、家族関係の問題など多岐にわたる相談に応じている。



### ―基本方針―

- 中立的な立場から患者・家族等と関係職種・医療機関との信頼関係の構築を支援する。
- 必要に応じて関係職種、関係機関との連携を図り、相互に情報・意見交換を行い、相談援助体制を構築する。
- 患者の自律性、主体性を尊重し、患者との積極的な

関わりのもと問題整理を援助し、解決方策の選択肢を提示する。

- 社会的に求められる守秘義務を遵守する。
- 最良の実践をおこなうために研修などに参加し、専門性の向上に努める。

### ―実績―

早期退院支援に向けた新たな取り組みとして退院支援看護師長、入退院サポートセンターなど看護局と連携し、病棟ラウンドの実施や病棟ラウンド後にカンファレンスを実施し、新規入院患者の中で退院支援が必要な患者さんを抽出、その情報を共有することで早期に患者支援を行えるような体制を構築した。転退院の調整の中で、退院支援計画書の作成も入院病棟で主に作成し、患者さん・家族に入院後早期に退院支援の意識付けを行えるよう取り組んだ。その結果、退院支援計画書作成件数は激増し、各関係機関との連携においても、退院前カンファレンスを行い、介護支援連携指導料に結びつくよう取り組んだ結果、在宅調整件数の増加につながった。

相談内容の中で最も多かった項目は例年通り、転院調整であったが、調整件数は990件(前年度は1,080件)と、1月あたり約83件(入院患者のみ)の調整ということになった。また在宅調整についての相談も前年度と比較して増加(265件から360件へ)しており、年々増加傾向にある。

今年度の実績では、延べ相談支援件数は新規・継続合わせて7,485件であり、一日あたり約30件(前年度は約32件)の相談に応じている。相談支援内容のうち転院調整が例年通り最も多く、全体の約65%(前年度は62%)であった。

周産期においては、妊婦さんの抱える様々な社会的な問題の支援、関係機関との連携を密におこなっており、産科医とともに「安心母と子の委員会」に参加した。2012年9月より「妊婦等について悩まれている方のための相談援助事業」が大阪府下で開始となり、妊婦期からの妊娠・出産・子育て等に係る相談体制等が整備され、当院も継続して地域の後方支援病院としての役割を担うこととなっている。

### ―対外活動実績―

#### ①大阪府産婦人科医会

- 安心母と子の委員会に出席。
- ・2015年度未受診妊婦実態調査
- ・「妊娠中からの妊娠・出産・育児支援と、その後の育児に関する調査」
- ・要養育支援者情報提供票実施要綱の改訂、運用について協議
- ・「児童虐待の予防・早期発見のために妊婦と子どもへ

の支援における医療機関の役割」  
・泉佐野市周産期支援部会 等

②南泉州地域医療介護連携協議会

5月21日、10月22日、2月18日の計3回開催。

泉州圏域における地域リハ推進活動、介護事業所との連携をテーマに南泉州地域の介護・医療のこれからの連携について、協議会を通して検討した。(於：りんくう総合医療センター)

③大阪緊急連携ネットワーク 地域連携担当者会議

4月21日、7月21日、10月27日、1月22日の計4回開催(主催は日本慢性期医療協会)され、3次救急病院と慢性期病床の連携について協議をおこなった。

④自殺未遂者支援事例検討会

2015年度は計4回開催され、府内における自殺未遂者及びその家族に対する地域関係機関との連携支援についての課題や解決策について事例を提出し、検討した。

(主催は大阪府こころの健康総合センター)

⑤地域包括ケア会議

各関係機関の現状報告(各地域包括支援センター、保健所、保健センター、泉佐野市役所、当院)で主に高齢者の生活や地域における困難ケースについて協議・事例検討会をおこなった。

⑥大腿骨地域連携パス会議

地域連携パス定例検討会に出席。

泉州地域における大腿骨地域連携パスの運用について協議した。

⑦泉州地域リハ連携会議

7月25日、2月27日の計2回開催(事務局:府中病院)

南泉州地域におけるリハビリについての課題について急性期病院、回復期リハ病院、医療療養型病院、連携開業医と情報共有をおこない、地域連携パスの運用について協議した。

—各種調整実績と成果—

【転院調整実績】

	2014年度合計	2015年度合計
外来から他院	123	111
入院から他院	1,080	990

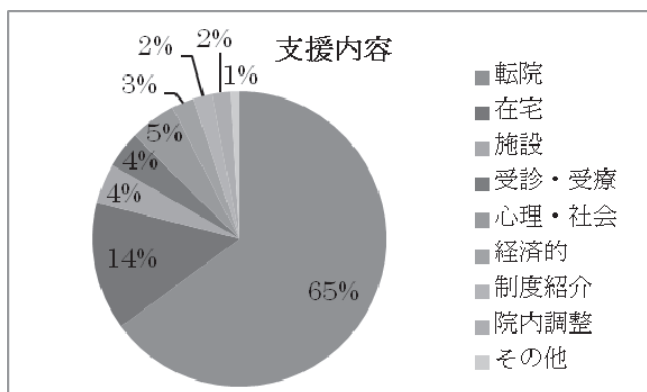
【在宅調整実績】

	2014年度合計	2015年度合計
在宅	268	360
施設	データ無し	94

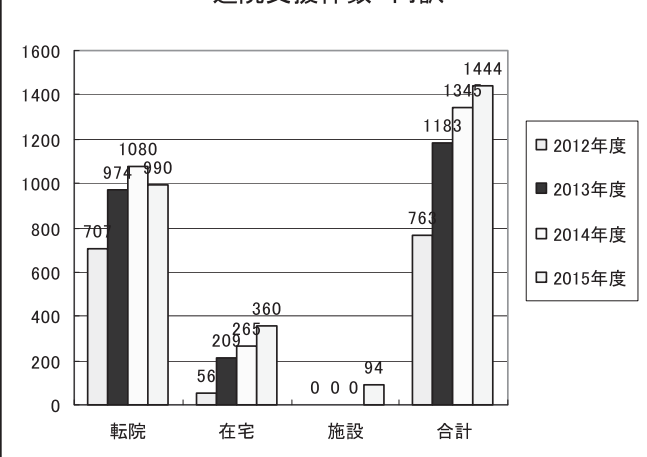
【急性期病棟等退院調整加算1算定状況】

	2014年度合計	2015年度合計
退院支援計画書作成件数	286	3,984
算定件数	283	3,271

【相談援助内容内訳】



退院支援件数 内訳



—今年度の成果と反省点—

前方連携では安定した紹介受け入れ実績を残している。各種の連携パスも一定の整理がされている。なすびんネットについても本番稼働から2年目を迎え、運用実績も向上してきている。それぞれの項目の質が問われてくる。後方連携においては、多職種によるチームでの退院支援に取り組むことができた。退院支援計画の実施件数が大幅に増加し、早期の退院支援着手が実現できた。

—来年度への抱負—

診療報酬改定の内容に沿った連携体制の構築が求められてくる。その中で、地域医療構想(ビジョン)の構築や地域包括ケア体制の整備に向けて、地域の中核病院としての役割を担っていく必要がある。病病連携を更に緊密にし、病診連携体制を強固なものにしていくよう努めていきたい。医療と介護の連携を見据えた連携体制の構築を目指していきたい。